

## 米国 生産活動は堅調(17年4月鉱工業生産)

公表日：2017年5月16日(火)

～鉱工業生産の拡大モメンタムは強まっている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (SIC)	生産能力
	前月比	(前年同月比)									
16/04	+0.3	(▲1.7)	▲0.0	▲2.3	+6.1	+0.2	+0.0	+1.7	+75.6	+75.1	▲0.0
16/05	▲0.1	(▲1.5)	▲0.2	+0.5	▲0.2	+0.6	▲0.3	▲3.2	+75.6	+75.0	▲0.0
16/06	+0.4	(▲0.8)	+0.2	▲0.4	+2.2	+0.2	+0.1	+3.9	+75.8	+75.1	+0.0
16/07	+0.1	(▲1.2)	+0.1	▲0.2	+0.6	+0.8	+0.0	+0.8	+75.9	+75.1	+0.0
16/08	▲0.1	(▲1.3)	▲0.4	▲0.2	+2.1	+0.3	▲0.4	+0.2	+75.8	+74.7	+0.0
16/09	▲0.2	(▲1.2)	+0.2	▲0.3	▲2.8	+1.3	+0.2	+0.4	+75.6	+74.9	+0.1
16/10	+0.2	(▲0.8)	+0.2	+2.0	▲1.9	+1.5	+0.3	+0.8	+75.7	+75.0	+0.1
16/11	▲0.2	(▲0.4)	+0.2	▲0.1	▲3.3	+0.7	+0.1	▲1.4	+75.5	+75.1	+0.1
16/12	+0.8	(+0.8)	+0.2	▲0.3	+6.9	+0.5	+0.2	+1.3	+76.0	+75.2	+0.1
17/01	▲0.3	(+0.0)	+0.4	+1.4	▲6.8	▲0.2	+0.5	▲1.0	+75.8	+75.4	+0.1
17/02	+0.2	(+0.4)	+0.3	+3.8	▲5.2	▲0.4	+0.4	+1.2	+75.8	+75.6	+0.1
17/03	+0.4	(+1.5)	▲0.4	▲0.4	+8.2	+0.7	▲0.7	▲3.6	+76.1	+75.2	+0.1
17/04	+1.0	(+2.2)	+1.0	+1.2	+0.7	▲0.2	+1.0	+5.0	+76.7	+75.9	+0.1

### 4月の鉱工業生産は 前月比+1.0%と加速

17年4月の鉱工業生産は、前月比+1.0%と市場予想の同+0.4%を大幅に上回った。公益事業が鈍化したものの、製造業、鉱業が増加に転じた。

公益事業は、3月に気温の低下によって高い伸びとなった反動で鈍化した。一方、鉱業が原油価格の上昇を受けた石油・ガスの掘削などの拡大を背景に前月比+1.2%と増加したほか、製造業生産は前月比+1.0%と市場予想の+0.4%を大幅に上回った。

4月は自動車産業など多くの業種で生産の拡大が確認された。製造業では、ドル高の影響を受けながらも、在庫に過剰感がないほか、世界的な経済成長の再加速により上昇した。

業種別では、非鉄が減少に転じたうえ、航空機・その他輸送設備が減少幅を拡大した。また、コンピューター・電子機器、化学は鈍化した。一方、木材、加工金属、一般機械、電気設備・部品、自動車・同部品、家具・関連製品、その他耐久財、食品・飲料・タバコ、繊維、紙、印刷・同サポート、プラスチック・ゴム製品、その他製造業が増加に転じたほか、一次金属、アパレルが減少幅を縮小した。さらに、石油・石炭は高い伸びを維持した。

稼働率では、投資の持ち直しにより生産能力が増え始めた一方、生産が加速したことを背景に鉱工業全体が76.7%（前月76.1%）と上昇し、市場予想の76.3%を上回った。また、製造業は75.9%（前月75.2%）と上昇し、設備投資を促している。

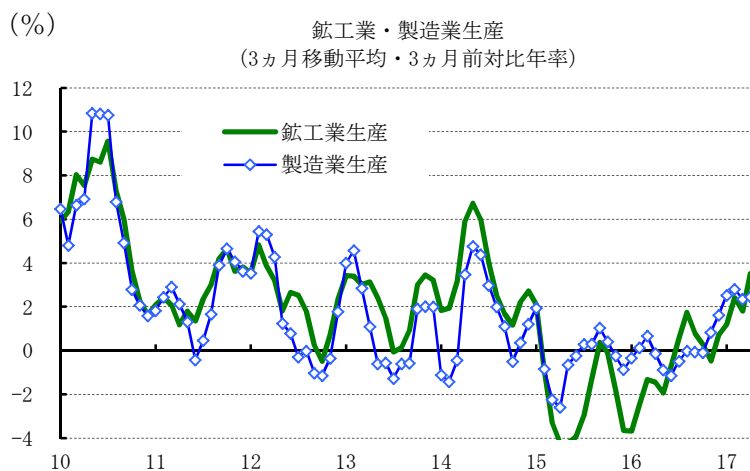
### 生産活動は緩やかな改善を続ける見込み

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が製造業、鉱業の増加を背景に+3.5%（前月+1.8%）とプラス幅を拡大し、拡大モメンタムが強まっている。製造業生産は+2.4%（前月+2.3%）とプラス幅を拡大し、拡大モメンタムは強いまま。

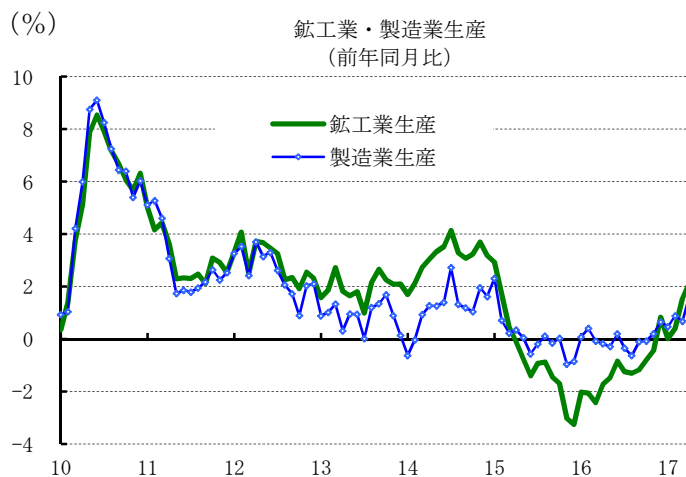
四半期では、4月の鉱工業生産（平均）は鉱業や製造業の拡大を背景に1-3月期比年率+5.4%と1-3月期の前期比年率+1.8%から加速した。4月の製造業生産（平均）

は、1－3月期比年率+3.2%と1－3月期の前期比年率+2.7%からプラス幅を拡大し、経済活動の活発化を示している。アパレル、航空機・その他輸送設備の低迷が続く中で、自動車・同部品等、コンピューター関連が拡大に転じた。

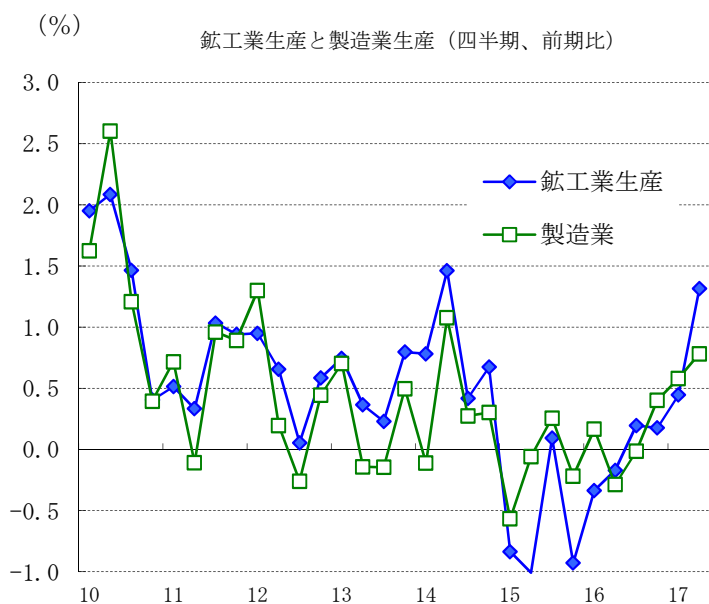
今後の鉱工業・製造業生産活動は、堅調な国内需要、原油価格の安定、在庫調整の進展を背景に押し上げられるものの、ドル実効レートの高止まりの影響を受け、緩やかな拡大が予想される。



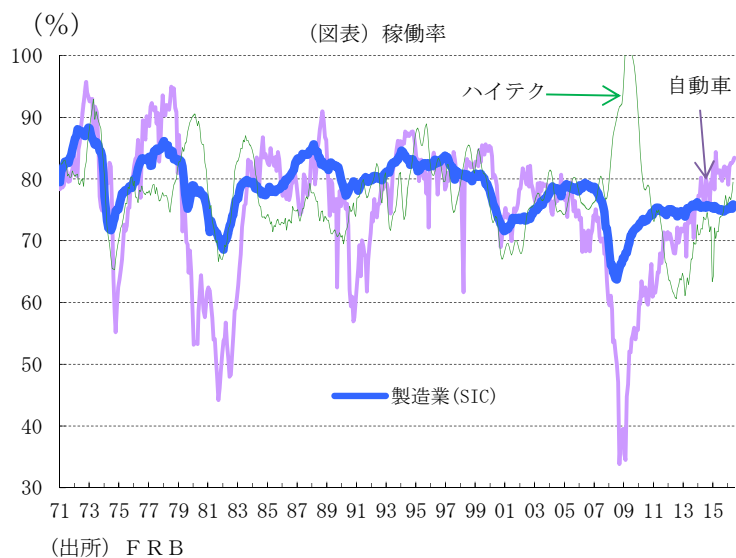
(出所) FRB



(出所) FRB



(出所) FRB



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。